協伸静塗株式会社 http://www.kyoshin-seito.jp/

所在地：高岡市吉久1丁目352-2 TEL：0766-84-2011

障害者雇用に取り組んだら、これからの社会に対応する環境づくりが見えてきた。

平成16年1月、新港工場を統合し新設した本社工場。「景観美化という形で社会貢献したい」という加藤社長の熱い思いから、まるで港に浮かぶ船のような斬新なデザインが生まれた。対岸からの眺めもまた、美しい。

従業員数 60名（H20.2 現在）

障害者数 知的3名

雇用率 5% 3/60

事業内容

金属製品表面処理及び静電塗装

障害者の従事する職種

処理工程の前準備作業及び
その他補助作業

景観に調和した新社屋工場のデザインが評価され、平成17年度 富山県うるおい環境とやま賞 風の賞受賞。

障害者雇用の沿革

2004（平成16）年1月より新社屋工場稼働。社会貢献活動の一環として、障害者雇用の取り組みを検討。同年11月、富山県立高岡養護学校より職場体験実習の申し込み依頼があり、養護学校や支援センターなどの協力により、実施・採用までに至る。現在、3名の知的障害者が就労中。

職場体験実習が、障害者という壁を取り払ってくれた

障害者の中でも、知的障害者は心のバリアという高いハードルがあり、一般企業への就職が難しいと思われがちだ。しかし、得意な作業については健常者にも勝る能力を発揮するという。その得意とする何かを雇用する企業が見つけ出し、適所に配属すればきっと、健常者と一緒に働けるはず。そんな願いを形にしたのが、金属塗装メーカーの協伸静塗。2004（平成16）年にひとりの知的障害者を雇用したことがきっかけで、現在3名の知的障害者が社員の一員として活躍している。いったいどのような職場なのか、工場を訪ねた。

「業務拡大によって社員数が増えたことで法定雇用率という社会的責任がついてきた頃、ちょうど養護学校の先生から『来春卒業見込みの生徒に職場体験実習をさせてもらえないだろうか』という働きかけがあったんです」と、代表取締役社長の加藤一博さん。職場体験実習とは、約2、3週間、企業で実際の仕事を体験してみること。その適性を見て採用・不採用を決める場合もある。

一つひとつの動作を自分で確認しながら、てきぱきと仕事をこなしていく尾間 功さん。任されている責任感からか、その表情は自信に満ち溢れている。

「障害者と企業が知り合う機会を積極的に設ければ、障害者雇用のマイナスイメージが払しょくされるはず」と、代表取締役社長の加藤一博さん。

長続きしないサポートは、しないこと

協伸静塗の場合は雇用を前提としたこともあり、あえて特別扱いはしない方針で受け入れを決定。塗装や表面処理を施す作業の前工程として、製品や部品に付いたゴミを落としたり、整然と並べたり…、簡単な作業を2週間ほど体験してもらった。

「うちは誰でもこの作業からはじめるんです」と教えてくれたのは、製造管理課長の湊久之さん。単純だが、どれも必要な作業。今では障害をもつ社員に任せっきりだが、以前は新人や高齢の社員が交代で行っていた。

「新入社員研修と同じようにやってみたら、できた！ という感じ。根気強さにかけては健常者以上の能力をもっていて、とくに単純作業に適している印象を受けました」と湊さん。講習を通して、現状のままで十分に働けることが分かっているので、入社後も、担当社員がつきっきりでサポートする必要もないというわけだ。

「間違ったら注意してくれる人が周りにいるから大丈夫です」と佐伯さん（写真・右）

障害者への配慮の中に、作業効率化のヒントが隠れている

協伸静塗の障害者雇用の取り組みは、いたってシンプル。養護学校、障害者就業・生活支援センター、ハローワーク、どの機関からの働きかけであろうと、雇用を検討する際は必ず事前に職場体験実習を行う。採用後は障害の度合いによって、障害者職業センターに所属するジョブコーチの支援を受けることもある。障害に配慮した対処法や作業工程などの設定についての助言の中には、作業効率化のヒントが隠れていることも多々あるのだという。

「障害者にとって便利なことは、健常者にも便利なことが多いんです。例えば、『品番や名前は覚えにくいので、単純明快に色で商品を分類してはどうでしょう』とアドバイスいただいたときは、目から鱗が落ちたような気分でした。中国人研修生も働いているんですが、色なら日本語が読めなくても大丈夫ですからね。高齢者だって細かい文字よりは見やすいはず」と、加藤社長はにっこり笑う。また、障害者雇用に取り組むことで、職場の環境づくりへの意識が高まったのだとか。

「うちの工場はワンフロアなので、もう少し通路を広げて車椅子でも安全に働ける職場にしたいと考えています。これで台車も使えるようになるので、女性や高齢者でも重い荷物の運搬作業ができるようになります。考え方ひとつで作業の効率化が図れるでしょう」。

障害者雇用のための環境づくりは、少子高齢化や国際化が進むこれからの社会に対応する大きな第一歩になるのかもしれない。

気がかりなことがあれば声をかける、同僚のさりげない配慮があれば十分だ。

塗装現場とは思えないほど美しく整然としている工場内。ワンフロアで作業工程がすべて見通せるので誰が働いても安心・安全だ。

＊私たち頑張っています!!＊

佐伯 美菜さん
勤務4年目

入社して3年が経ち、ずいぶん職場にも仕事にも慣れました。今は、塗装をする商品を準備したり、塗装用のハンガーに吊るしたりする仕事をしています。作業は簡単ですが、「商品に抜けがないかな」と注意したり、手が空いたら「他にする仕事がないか」と探したりする、状況判断が難しいです。でも、周りの人が声をかけてくれるので大丈夫。一生懸命に仕事をして、今年の夏もみんなと一緒にバーベキューをしたいです。